

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2019年度 優秀園 審査委員特別賞
NPO法人東村山子育て支援ネットワークすずめ
つばさ保育園

本園は、2017年度から継続して、本論文主題「科学する心を育てる」に取り組み、子どものつぶやきや気づきに丁寧寄り添い、「科学する心」の視点から、子どもたちの体験を読み取る努力を重ねています。

5歳児の4人の子どもたちから始まったロケット作りへの興味は、友達、そしてクラス全体の探究に広がり、2か月に及ぶ取り組みとなりました。子どもたちの思いによって、ロケットを作る素材や材料は、様々に変化しながらも、友達と協働して、試行錯誤していく過程が、生き生きと伝わってきます。保育者は、子どもの思いに添って環境を工夫しながら、共に試行錯誤し探究されています。

子どもたちが、「ロケットを作りたい、飛ばしたい」との目的を実現していく過程では、多くの「気づき」「発見」「探究」をもたらしました。特に、大失敗の体験が、子どもたちの意欲を掻き立て、再挑戦や試行錯誤につながる原動力となった姿に、確かな「科学する心」の育ちを読み取ることができます。

ペットボトルロケット製作キットの実施に至るまでに、保育者の十分な検討と子どもの体験の積み重ねを経て取り組んでいることが、本実践の特長です。加えて、重量(慣性質量)、密度(空気と水)摩擦、弾性といった物理の基本的要素を、子どもたちは、ロケットに関する探究の過程で自然に体験し学んでいることがわかります。特に、本ロケットを飛ばすに当たり、水の役割の重要性に気づいていく過程には、子ども自身が、水鉄砲での先行経験を意識している点も、他にないユニークな取り組みと言えます。

子どもの興味の深まりに応じて、地域の教育施設との連携やロケット映像を見せる機会を設けるなどの保育の工夫もされています。このような環境の工夫と保育者の適切な援助によって、学びや体験が豊かに稔った実践であり、他園にも参考になる取り組みとして高く評価されました。

これらの活動を伝えるドキュメンテーションは、子どもたちの取り組みが異年齢の子どもたちや家庭にも伝わり、保護者も共にロケット作りに興味を寄せていく姿など、保育の発信と共有の確かな効果を感じました。

今年度の成果を基に、立ち上げられた全職員による研究会において、本論文主題「科学する心を育てる」の理解をさらに共有され、保育の質の向上につながることを願っております。